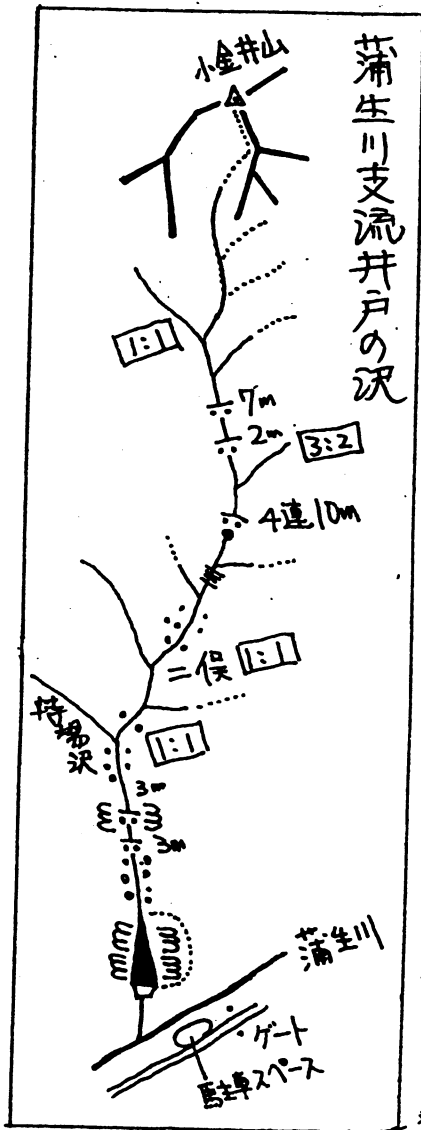


るのみであった。

(山 川 記 事)

[タイム] 出合(7:20)→持場沢出合(8:35, 8:40)→小金井山(11:15)



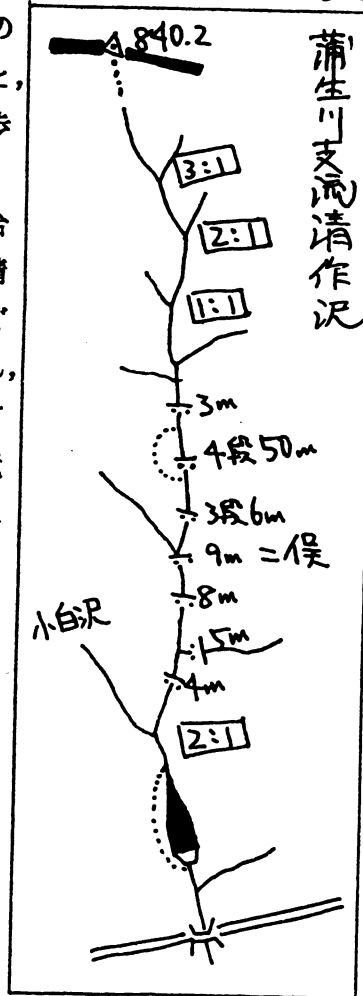
蒲生川支流清作沢

1994年7月31日

L

清作沢に入ると、すぐ大きな砂防ダムに出会う。堰堤に登ると、茶色の水が溜っている。泳ぐ気にもならないので、捲くことにする。左側を捲くが、シャクナゲのヤブで、なかなか歩みにくい。やっとのことで沢に戻ると、しばらくは河原歩きが続く。

小白沢との出合を確認した後、清作沢に入る。すぐ4mの滝が現われ、左側をクリアーする。次の8mの滝は右に高捲く。二俣では9mと5mの滝が出合っており、その真中を直登。小規模の滝が



続いた後、この沢最大のハイライトともいべき4段50mの大滝に出会う。なかなかの威圧感がある。左側を高捲くこととしたが、この高捲きもやさしくはない。沢に戻るともう滝はかからない。最後はスラブ状の所を登って、840.2mの三角点を踏んだ。

(記・ 日)

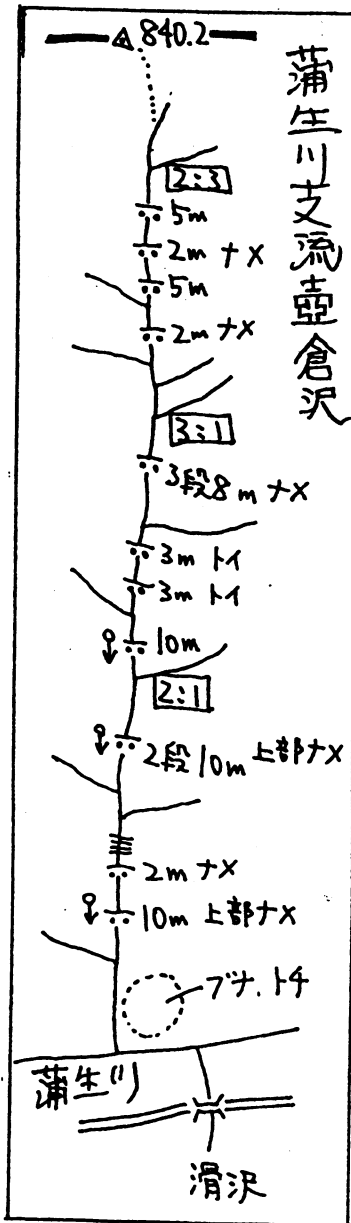
[タイム] 出合(8:30)→砂防ダム(8:35)→小白沢出合(9:15)→二俣(9:35)→840.2m三角点(12:40)

蒲生川支流壺倉沢 1994年7月31日

840.2mピークより下降開始。すべりやすい斜面をヤブをこぎながら下ると沢に出合う。最初の5m滝は右岸をクライミングダウン。このあと小～中規模の滝が次々と出てくる。またナメが多く、気持よく歩ける。中間部より下流に10m規模の滝が3カ所あるが、いずれも懸垂下降でクリアーする。蒲生川に入る前のブナの森は素晴らしく、気持の良い所であった。

(記・)

[タイム] 840.2mピーク(13:05)→沢(13:30)→蒲生川出合(15:30)→林道(15:40)

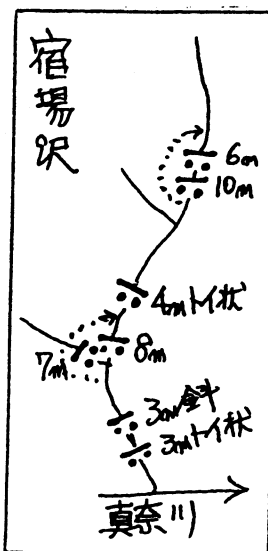


真奈川支流宿場沢右俣

1995年7月29日

L:

昨年同時期の沢登り合宿では、メジロの群れにまといつかれて往生した。今回の沢登り合宿も恐怖の思いでやってきたのだが、メジロは一匹もない。7月半ばの大雨で流れ去ってしまったものだろうか。



30分ほどの遊行で、7mと8mの滝2つが並んで現われる。今日のは宿場沢本流(左俣)であったのだが、ここで間違えてしまった。8m滝のかかっている方を、沢本流と判断してしまったのである。左俣にかかる7m滝を高